

活動名	団体名	(特活)熱帯森林保護団体ひろしま
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 松岡 敏子
	支援金額	20万円

**活動概要**

本件は、当団体 10 周年に向けた貴財団の 2012 年度助成活動「行動人となれ！ぼくらの未来はどうなる…」に参加した育った学生等が 13 年度試行した活動を発展・具体化するものでした。熱帯森林保護や先住民支援を地域の課題と関連づける定期的な学習の場やアマゾンの長老や青年インディオと宮島で交流する場を若者が協力し合う運営を通じ、より国際人としての成長や同世代の新たな参加・連携を広く行いました。またその学習・交流プロセス・成果を本通りや国際交流行事におけるプログラムとして、広く一般の市民に提供しました。これは、なかなか実態として伝わりにくい遠い国の現実等を、特に子供たちや家族連れ等が身近に感じたり行動する契機となりました。この活動は、東京で始まった「熱帯森林保護団体」の活動 25 周年記念事業と連携・位置づけにより、2007 年以來となる先住民との直接交流を広島で実現し、全国に先進事例として発信しました。

◆実施時期

- ①7月19日 ひろしまジン大学との協働事業 留学生会館
- ②10月4日5日 インディオ工芸品展示会(てんぐG)におけるワークショップ
- ③10月18日 長老ラオーニ・南研子講演会広島経済大学宮島セミナーハウス成風館
- ④10月19日 宮島大聖院の境内にてワークショップの開催
- ⑤2月21日 活動報告会とアマゾンから考える未来

◆参加人数

- ①30名 ②60名 ③100名 ④60名 ⑤40名

参加総人員:290名



アマゾン長老ラオーニと高校生



ワークショップでボディペインティングする  
青年インディオ



広島経済大学宮島セミナーハウスでの講演会風景



工芸品展示会場でのワークショップ記念撮影

#### ◆実施に伴う効果

2014 年初めから、10 月のアマゾンインディオ来広に向けて若手スタッフと合宿ミーティングなどを重ねながら、アマゾン事前学習やイベントの意義や広報の方法など話し合いを続けた。若手スタッフにひろしまジン大学へ参加している者がおり、財団の支援贈呈式で代表と知り合ったこともあり、ひろしまジン大での授業が実施できたことや、支援をいただいている広島国際ソープチミストからのご縁で広島経済大学興動館との協働で講演会が実施できたことなど、今までの繋がりでこの事業が広まったことがよかったことだった。若手スタッフにとって参加するイベントではなく自ら企画運営するものとなったことも今後につながる大きな力となった。

#### ◆苦勞した点・今後の課題・発展の方向性

まず予算の確保です。インディオ来広のイベント全般の実施にあたっては自己資金が少ないために多くの皆さまのご支援をいただきました。マツダ財団のご支援は、一番早く決まっていたのでとても安心し助かりました。広報活動にもいつも頭を悩ませるのですが、今回は若手スタッフの意見を取り入れネット環境を整えたりフェイスブックを使うなど新しいことにも挑戦しました。学校関係へのアプローチは以前講演会をしたなどご縁があるところはスムーズに広報できましたが、教育委員会を始め行政機関はなかなか門戸が固いというのが正直なところです。アマゾンの現実と私たちとの暮らしとの関係を伝えることこそが私たちの活動の第 1 使命と考えていますが、まだまだ十分ではありません。今後も地道な活動を通じて私たちの活動を広めていければと思います。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

この活動を終えての感想を一言でいうならば、参加した者全員が「楽しかった！」ということだと思えます。アマゾンのジャングルから 2 万キロの旅をして広島へやってきた長老ラオーニ・ブライリ・ベッポーの 3 人も旅を本当に楽しんでいました。さまざまなイベントを通じて深い国際交流ができたと思います。

しかしながらアマゾンの状況は今この時も、ますます厳しいものとなっています。それに伴い地球環境の変化も著しいものがあり、それは私たちも感じる場所です。アマゾンと私たちの暮らしは確実に繋がっている！それを楽しみながら皆このイベントを通じて感じたことでしょう。20 歳のベッポーにとってもこの広島でのイベントは人生の特別なものとなり、またアマゾンに戻り活動を続けることでしょう。そしてフェイスブックで今も交流を続け広島とアマゾンはもはや遠い地ではなくなりました。同じこの星に生きている者として励まし合いながら未来に向けてアマゾンの森の保護活動をこれからも続けていきたいと思えます。